

授業実践 【小学校第3学年 国語科】

単元名 話し合って決めよう（『わたしたちの学校行事』 光村図書 国語三）

1 単元の目標

- 司会や提案等の役割を果たしながら、進行に沿って話し合うことができる。
- 互いの考えの共通点や相違点を考えながら、説明する内容や方法について話し合うことができる。
- 相手や目的に応じて、相手を見て間の取り方などに注意し、筋道を立てて話すことができる。

2 指導計画（全12時間）

- | | |
|----------------------|------------------|
| ○説明する学校行事や伝えたい相手を考える | … 1 時間 |
| ○自分が説明したい運動会の競技を考える | … 1 時間 |
| ○1年生に説明したい内容を考える | … 1 時間 |
| ○上手な話合いの仕方を確認する | … 1 時間 |
| ○グループごとに内容や方法を話し合う | … 2 時間（本時 2 / 2） |
| ○発表メモを作る | … 1 時間 |
| ○グループごとに発表の練習をする | … 3 時間 |
| ○1年生に向けて発表する | … 1 時間 |
| ○学習を振り返る | … 1 時間 |

3 本時の目標

- 司会や提案等の役割を果たしながら、進んで話し合うことができる。
- 1年生に運動会のことについて分かりやすく説明するために、友達と自分の意見の共通点や相違点を考えて話し合うことができる。

4 「ユニバーサルデザイン」の視点に応じた支援を取り入れた本時の授業

本時の学習は、1年生に対して、運動会について説明するという目的をもち、説明したい競技別に分かれたグループで話し合うことを中心とした学習である。司会や提案等の役割を果たしながら、進行に沿って進んで話し合い、互いの意見の共通点や相違点を考え、説明する内容や方法について考えをまとめることをねらいとしている。

本学級の児童は、5月の単元で「よい聞き手になろう」を学習し、話し手が話した内容を受け止め、感想を伝えたり、質問したりすることができるようになってきている。この学習を生かして、帰りの会では、友達のスピーチを最後まで聞き、質問できるようになってきている。しかし、4～5人のグループで司会を立てて話合いを行った際に、特定の児童ばかりが話を進めたり、話し合う内容からそれたりする場面があり、司会や提案等の役割を果たしながら、司会の進行に沿って話し合うことはできていない。また、話し合ったことを書く際に、自分の考えを書き表すことが難しい児童や人前で話すことが苦手な児童もいる。

これまでの授業づくりの傾向をチェックシートの結果から見ると、「環境の工夫」「個人差への配慮」に比べると、「組立ての工夫」「説明の工夫」のポイ

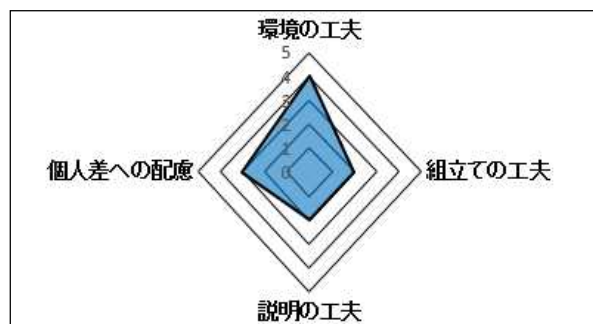


図 これまでの授業づくりの傾向

ントが低いことが明らかになった。そこで、児童の実態及びこれまでの自身の授業づくりの傾向を踏まえて、次のような視点に応じた支援を取り入れる。

○意識して取り入れる視点に応じた支援

【組立ての工夫】

- ・学習の見通しをもつことができるように、授業の導入で本時の学習活動を黒板に示す。
- ・全員が自分の考えをもって話し合いに参加できるように、話し合う前に考えを付箋に書く時間を設ける。
- ・グループでの話し合いの際は、考えを書いた2色の付箋を動かしたり重ねたりする時間を設ける。

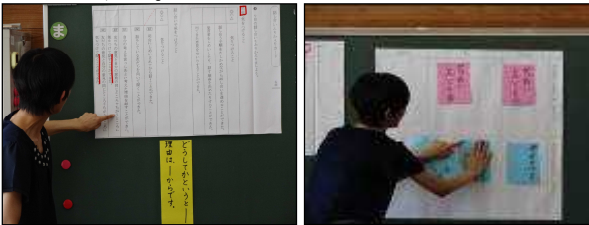
【説明の工夫】

- ・話し合いの目的や進め方等を理解することができるように、児童と同じワークシートを拡大したものを提示して説明する。
- ・話し合いの要点を意識することができるように、チョークの色を変えながら板書したり、キーワードを書いたカードを提示したりする。

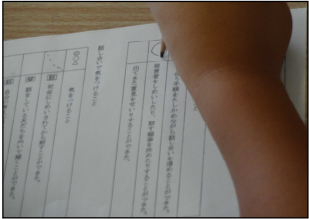
【個人差への配慮】

- ・話すことが苦手な児童には、自分が書いたものを友達に読んでもらったり、動作で自分の言いたいことを伝えたりしてもよいことを個別に伝える。

5 授業の実際 (環 環境の工夫 組 組立ての工夫 説 説明の工夫 ◎ 個人差への配慮)

学習活動	「ユニバーサルデザイン」の視点に応じた支援	取組の様子
〔授業前〕	環 すぐに話し合いができるように、1年生に説明したい競技別に分かれたグループごとに机を移動させておくというルールを決めておく。 組 児童が注意を持続して学習することができるように、教師の説明を聞く時間、グループで話し合う時間、活動を振り返る時間等の活動を取り入れる。	1年生に早く小学校の運動会について教えたいな。自分が説明したい競技等について話し合うので、楽しみだな。早く準備をしておこう。 
1 前時までに学習した話し合いの仕方を振り返り、本時の学習内容を知る。 児童に意識させたい言葉 ～さんに賛成です 反対です 付け足しがあります どうしてかというと ～だからです 理由は～だからです	説 前時までの学習を振り返ることができるように、児童が使用するワークシートや付箋を拡大したものを提示しながら説明する。 説 児童に意識させたい言葉をカードに書いて提示する。  組 児童が授業の見通しをもつことができるように、学習の流れを黒板に示す。	どんな勉強をしていたか思い出してきたわ。ワークシートを読むことで、話し合いで大切なポイントが分かったわ。付箋を使いながら話し合いをしたんだよね。 学習の流れが貼ってあるので、今日することの見通しがもてたぞ。 
学習課題 運動会についてどのように説明するのかを話し合おう	説 話し合いの要点を意識することができるように、チョークの色を変えながら板書したり、キーワードを書いたカードを提示したりする。	

		今日のめあてが分かったわ。 1年生に分かりやすい発表の工夫をしなくちゃ。 
2 グループごとに話し合う。 1年生に説明する内容 ①ダンス ②玉入れ ③応援合戦 ④リレー ⑤かけっこ ⑥綱引き ⑦幼稚園と小学校の違い	説グループに分かれてスムーズに話し合いを始めることができるように、「机を向かい合わせにします」「司会がワークシートを取りに来ます」というように、指示は明確に簡潔にする。 環スムーズに話し合いを進めることができるように、司会の進行の仕方等、話し合いのルールを示したカードを、司会を担当する児童に配付する。  組全員が話し合いに参加することができるように、自分の考えを付箋に書く時間を設ける。 組自分の考えを明確にして発表することができるように、考えを書いた付箋を出したり読ませたりする等、付箋を活用した話し合いの時間を設ける。 ◎話すことが苦手な児童には、自分が書いたものを友達に読んでもらったり、動作で自分の言いたいことを伝えたりしてもよいことを個別に伝える。 組決まったことをワークシートに書くことができるように、2色の付箋を動かしたり重ねたりしながら整理をする話し合いの時間を設ける。 (ピンク色…説明する内容 青色…方法)  ◎何を書けばよいかを考えることが苦手な児童には、前時と本時で決まったことを振り返らせるために、教師が手掛かりとなる言葉を個別に伝える。	司会をするのは、難しそうだと思ったけど、このカードを手掛かりにしたら、できるかもしれないな。  付箋を友達に見せることで、話すことが苦手な児童も、自分の考えを伝える場面が見られました。  似た意見の付箋を重ね貼りしながら整理するグループもあり、決まったことを自分達なりに工夫して整理することができていました。  何を書けばよいか分からなかったけど、先生がヒントを教えてくださいましたから書けそうだな。 
4 本時の学習を振り	説 教師の話を中心して聞くことができるよう	

返る。	に、机を前に向けさせた状態に戻してから説明する。 組 本時の自分の話し合い方を振り返ることができるように、振り返りカードを準備する。 	振り返りカードをチェックしながら、今日の話し合いを振り返ることができたよ。 
------------	--	--

6 本時の成果と課題

(1) 成果

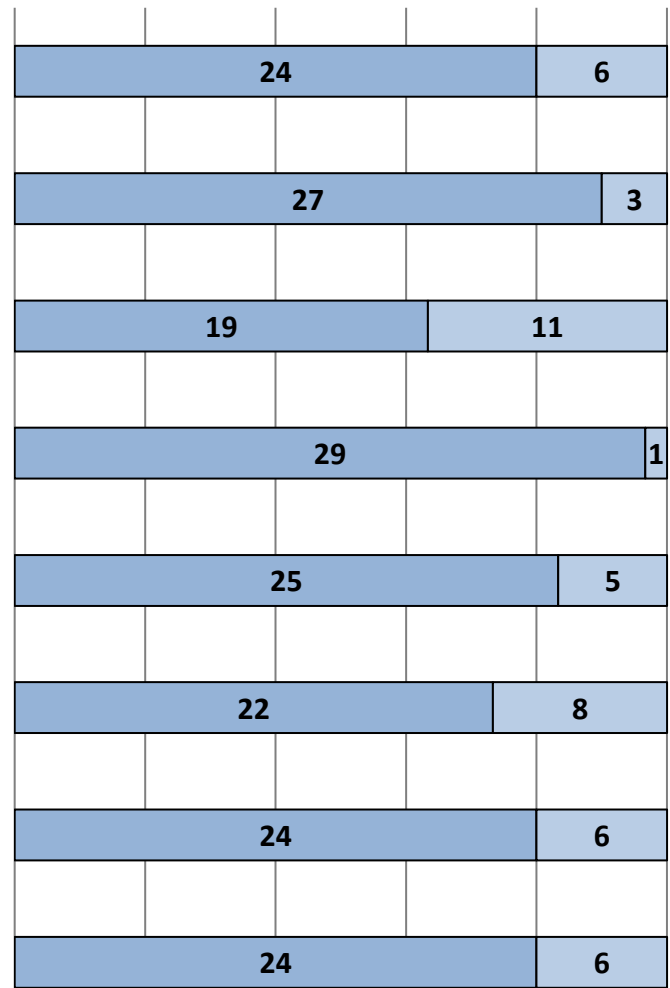
- チェックシートの結果より「説明の工夫」のポイントが低かったため、学習の進め方を説明する際に、児童が使用するワークシートや付箋を拡大したものを提示した。児童は、自分のワークシートと見比べながら聞くことができたため、話し合いのときに気を付けることを意識しながら、学習を進めることができた。
- チェックシートの結果より「組立ての工夫」のポイントが低かったため、見通しをもって学習に参加できるように、授業の導入で1時間の学習の流れを黒板に示した。何をしたらよいか分からなくなったときに、児童が黒板に掲示された学習の流れを見ることで、すべきことが分かり、学習を進めることができた。
- 話し合いを行う前に、付箋に自分の考えを書く時間を設けたことで、自分の考えを出しながら話し合うことができた。授業後の児童アンケートの結果によると「付箋があったので、自分の考えを発表しやすかったか」という質問項目に、30名の児童のうち、29名が「はい」と答えている。その理由として「付箋があったので意見を言いやすかった」「付箋があったので出た意見を整理しやすかった」と記述しており、付箋を使った話し合いが有効であった。
- これまでの話し合いでは、内容からそれてしまうことが多かったが、付箋を見ることで、どんな意見が出されていたかを確認することができ、内容に沿って話し合いを進めることができた。
- 話すことを苦手としている児童も、付箋に書いた考えを友達に読んでもらうことで話し合いに参加することができた。
- 話し合いで決まったことをワークシートに書く場面では、色分けした付箋を見て、前時に話し合った説明したい内容と、本時で話し合った発表の方法について、書き分けることができた。児童アンケートには「1年生に早く教えたい」「1年生に分かりやすく説明できそうでうれしい」と記述しており、次の学習への意欲が高まった児童も多かった。

(2) 課題

- 児童が使用するワークシートや付箋を拡大して黒板に掲示したことで、スペースが限られてしまい、児童の発言を十分に板書することができなかった。児童が分かりにくい部分がどこなのかを検討して掲示する必要がある。また、電子黒板と黒板を使い分けることで、板書するスペースを確保することも考えていきたい。
- 話し合いで付箋を活用するときに、児童は、似た考えに気付いて付箋を重ねることで整理することはできていた。しかし、決まったことをワークシートに書くときは、1番上の付箋をそのまま写すだけで終わってしまい、整理しながら書くまでには至っていないグループもあった。書き方のモデルを示す等の支援を取り入れる必要があった。

◇児童アンケートの結果

視点	質問項目
	今日の授業は分かりやすかった。
環	話し合うときは、机を向かい合わせにするというルールがあったので、話し合いがしやすかった。
組	今日の授業の流れが黒板に示してあったので、学習することが分かりやすかった。
組	自分の考えを付箋に書く時間があつたので、発表しやすかった。
組	2色の付箋を動かしたり重ねたりしながら整理をしたので、話し合いで決まったことをワークシートに書きやすかった。
組	先生の話の聞いたりグループで話し合ったりする活動があったので、最後まで集中して取り組むことができた。
説	拡大したワークシートや振り返りカードが黒板に貼ってあったので、学習のやり方が分かりやすかった。
説	色チョークやキーワードを書いたカードがあったので、学習の大切なところが分かりやすかった。



■はい ■どちらかというとはい ■どちらかというといいえ ■いいえ
(人)

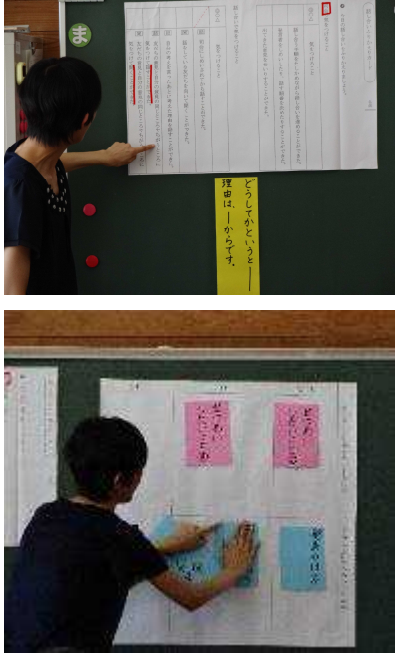
◇児童の感想 (◎…個人差への配慮の対象となった児童の感想)

- グループで集まったので話し合いがしやすかった。
- グループで意見がたくさん出たのでうれしかった。
- 見通しカードが黒板に貼ってあったので分かりやすかった。
- 付箋に意見を書いていたので、意見を発表しやすかった。
- 付箋があったので意見を整理しやすかった。
- 黒板に拡大したワークシートが貼ってあったので分かりやすかった。
- ワークシートがあったので授業が分かりやすかった。
- 先生の工夫のおかげで話し合いが進んだ。
- 1年生に分かりやすい説明ができそう。
- 1年生に早く教えたいので、勉強が役に立った。
- ◎話し合いは少し苦手だけど、自分の意見を付箋に書けたのでよかった。
- ◎難しい内容は先生がヒントを教えてくれたのでよかった。

◇具体的な支援と取組の様子

環境の工夫	司会の進行の仕方等、話し合いをするときのルールを示す
支援の意図	司会カードを準備し、進行の仕方等のルールを示すことで、児童が司会や提案等の役割を理解して、進行に沿って話し合うことができるようにする。
	取組の様子 これまでの学習では、特定の児童ばかりが話し合いを進めてしまったり、話し合う内容からそれてしまったりする場面が見られた。 そこで、進行の仕方を示した司会カードを各グループに準備し、司会の役割を明確に示したことで、話し合う内容からそれることなく、話し合いに取り組むことができた。司会を担当した児童は、司会カードを見ながら進行の仕方等のルールを確認し、自信をもって進行をすることができた。 児童アンケートには、司会を担当した児童が、「司会カードがあったため、話し合いを進めやすかった」と記述していた。また、「司会が上手にまとめてくれて、賛成や反対をしっかりと言えた」と記述した児童もいた。

組立ての工夫	付箋を活用した話し合いの時間を設ける
支援の意図	話し合いの前に自分の考えを色分けした付箋に書かせておくことで、自分の考えを発表したり話し合いながら意見を整理したりできるようにする。
	取組の様子 話し合いのときに、特定の児童ばかりが発言して話し合いを進めてしまうことが多かった。そこで、話し合いの前に自分の考えを書かせておくことで、ほとんどの児童が話し合いのときに自分の考えを言うことができた。児童アンケートの結果によると、「付箋があったので考えを発表しやすかった」と全員が回答していた。 児童の考えが書かれた付箋を分類させることで、互いの考えの共通点や相違点を視覚的に捉えることができ、付箋を動かしながら共通点をまとめる等して、話し合いを進める姿が見られた。

説明の工夫	視覚的な情報を提示しながら説明する
支援の意図	児童と同じワークシート等を提示して、前時の学習を振り返ることで、話し合うときに気を付けることを思い出し、本時に生かすことができるようにする。
	取組の様子 拡大したワークシート等を黒板に提示して、教師と一緒に読んで振り返ったことで、児童は話し合うときに気を付けることを再確認できた。 また、児童が使用する付箋と同じ色の色画用紙を黒板に提示することで、前時に使ったピンク色の付箋(説明する内容)と本時に使う青色の付箋(発表の方法)を区別し、本時に話し合うことを確認することができた。話合いのときも黒板に掲示しておいたため、児童は、時々黒板を見て、気を付けることを意識しながら話合いを進めることができた。 教師が児童に意識させたい言葉をカードに書き、掲示しておくことで、その言葉を使って発表する児童の姿も見られた。

個人差への配慮	他の児童とは違う表現方法で取り組むことを認める
支援の意図	話すことが苦手な児童が、動作で言いたいことを伝えたり、自分が書いた付箋を友達に読んでもらったりすることで、話合いに参加できるようにする。
	取組の様子 これまでの話合いでは、自分から意見を言うことができず、友達に意見を求められても黙っていることが多い児童がいた。 今回、付箋を使用したことで、自分の考えを書くことができていた。また、グループの児童には、話すことが苦手な児童が、動作で伝えたり友達に読んでもらったりしてもよいことを伝えておいた。意見を言う場面で話すことが苦手な児童が戸惑っていると、「私が読もうか」と友達が代わりに読む姿が見られた。話すことが苦手な児童は、自分の意見が伝わり、笑顔が見られた。また、意見をまとめるときに、司会が多数決を取る場面があった。話すことが苦手な児童も、挙手をすることで自分の考えを伝えることができた。